

# 大学生の所属サークル・部活動に対する認知が アイデンティティの実感としての充実感に与える影響 —親密性に着目して—

○関 大也 (早稲田大学大学院)

河村茂雄 (早稲田大学)

キーワード：サークル・コミットメント、アイデンティティ、親密性

## 問題と目的

人格形成の理論として存在する、Erikson (1959 西平・中島訳 2011) の漸成発達理論に、溝上 (2008) の見解も加味すると、大学生が「アイデンティティ対アイデンティティ拡散」の危機を乗り越え、「親密対孤立」の危機と対峙するためには、「役割実験」を通じた自分を試す作業が必要であり、その作業の場としてサークル活動や部活動も機能し得る可能性が理論面で示唆される。

橋本・唐沢・磯崎 (2010) や高田 (2014) の研究により、大学生のサークル集団に対する認知は類型化されていることが実証的に示されていると言える。

また大野 (1984) は、アイデンティティの各側面としての自立・自信、連帯 (初期成人期における「親密対孤立」の心理・社会的危機に対応)、信頼・時間的展望を青年が持つ場合に充実感を覚えると述べており、山田 (2004) や溝上・中間・畑野 (2016) を加味すると、大学生がサークル活動において活動への肯定的な認知的評価を行い、充実感を抱くことは、親密性の発達と関連することが示唆される。

そこで本研究では、大学生のサークル集団への種々の認知が大野 (1984) の提唱する充実感モデルのうちの連帯の因子に及ぼす影響を、分散分析によって調べる。

## 方 法

**調査手段** 質問紙調査

**調査対象者** 大学でのサークル・部活動への所属経験のある学部生・院生 135 名 (回答に欠損のあった者を除く)

**調査時期** 2018 年 10 月上旬

**使用尺度** サークル・コミットメント尺度 (橋本・唐沢・磯崎, 2010)・充実感尺度 (大野, 1984) とともに 5 件法 (1. 全くあてはまらない～5. とてもあてはまる)

## 結果と考察

サークル・コミットメント尺度について天井効果のあった項目を省いた後、因子分析をした結果、先行研究と異なり 2 因子に分かれた。先行研究に倣い、「情緒的・集団同一視コミットメント」および「規範的コミットメント」と命名した。充実感尺度についても、天井効果のあった項目を省いた後、因子分析をした結果、先行研究通り 4 因子 (「充

実感気分」、「信頼・時間的展望」、「連帯」、「自立・自信」となった。サークル・コミットメント尺度において、調査協力者を各因子の平均値によって、高群・低群の 2 群に分けた。

連帯の因子について述べる。情緒的・集団同一視コミットメントと規範的コミットメントによる 2 要因分散分析を行った結果、交互作用は有意ではなかったものの、規範的コミットメントの主効果が有意であった。 $(F(1, 131) = 5.81, p < .05)$  効果量  $\eta^2$  は  $\eta^2 = .04$  であり小さい効果量であった。

この結果から、サークル集団をやめたくても、それが困難であるという状況への認知が控えめなメンバーの方が、社会とのつながりのある感じや連帯感を持つことが示された。

Kroger, J. (2004 榎本訳 2005) は、青年期を通して、大きな仲間集団に属することの重要性は、年齢とともに減少していくとし、本人の選んだ重要な他者とかかわるという親密性の高いスタイルが、青年後期の仲間関係を一般に特徴づけるものとなると述べている。また、初期成人期の人々は、青年後期にある人たちに比べると、少数の友人との関係に集中する傾向があるとも述べている。このことから、規範的コミットメントが控えめな、無理にサークル集団にとどまらないようなメンバーは、本人の選んだ重要な他者との関わりを重んじ、親密性を発達させていると解釈され得る。

なお因子構造の変化については、本尺度の元となった高橋 (1997) の組織コミットメント尺度が、集団に対する愛着や同一視、忠誠心を合わせて、情動的コミットメントとしており、情緒的コミットメントと集団同一視コミットメントの概念上の混在が変化の原因の一つであると推察される。

**Table 1** 各群の人数および連帯得点の平均値・標準偏差

|    | 情緒的・集団同一視<br>コミットメント | 規範的コミットメント |       |
|----|----------------------|------------|-------|
|    |                      | 低群         | 高群    |
| 低群 | <i>N</i>             | 33         | 31    |
|    | <i>M</i>             | 18.33      | 16.95 |
|    | <i>SD</i>            | 3.91       | 3.54  |
| 高群 | <i>N</i>             | 21         | 50    |
|    | <i>M</i>             | 18.86      | 17.34 |
|    | <i>SD</i>            | 3.71       | 4.32  |